

平成26年12月11日(木)  
滋賀県建築士会説明  
滋賀県流域治水政策室

# 滋賀県の流域治水の考え方

昭和34年(1959年)伊勢湾台風  
滋賀県近江八幡市水荃町

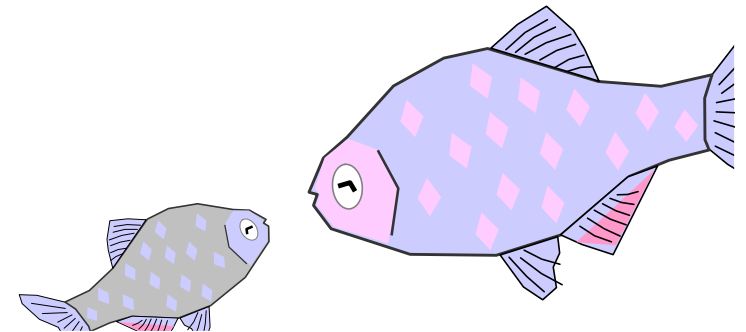


# 本日の内容

- 1 . 滋賀県の「流域治水」って、なに？
- 2 . 流域治水の基礎情報「地先の安全度マップ」
- 3 . なぜ「流域治水条例」が必要か
- 4 . 流域治水と建築

# 1. 滋賀県の「流域治水」って、 なに？

川の中だけでなく、川の外でも治水



# 滋賀県が進める「流域治水」

～ 地域性を考慮した総合的な治水対策の展開～

目的

どのような洪水にあっても、人命が失われることを避ける(最優先)  
床上浸水などの生活再建が困難となる被害を避ける

手段

- 川の中の対策だけでなく、「ためる」「とどめる」「そなえる」対策(川の外の対策)を総合的に実施する。

河道内で洪水を安全に流下させる対策  
(これまでの対策)

ながす

河道掘削、堤防整備、  
治水ダム建設など



流域貯留対策  
(河川への流入量を減らす)

ためる

調整池、森林土壌、水田、ため池  
グラウンドでの雨水貯留など

氾濫原減災対策  
(氾濫流を制御・誘導する)

とどめる

輪中堤、二線堤、霞堤、水害防備林、  
土地利用規制、耐水化建築など

地域防災力向上対策

そなえる

水害履歴の調査・公表、防災教育  
防災訓練、防災情報の発信など

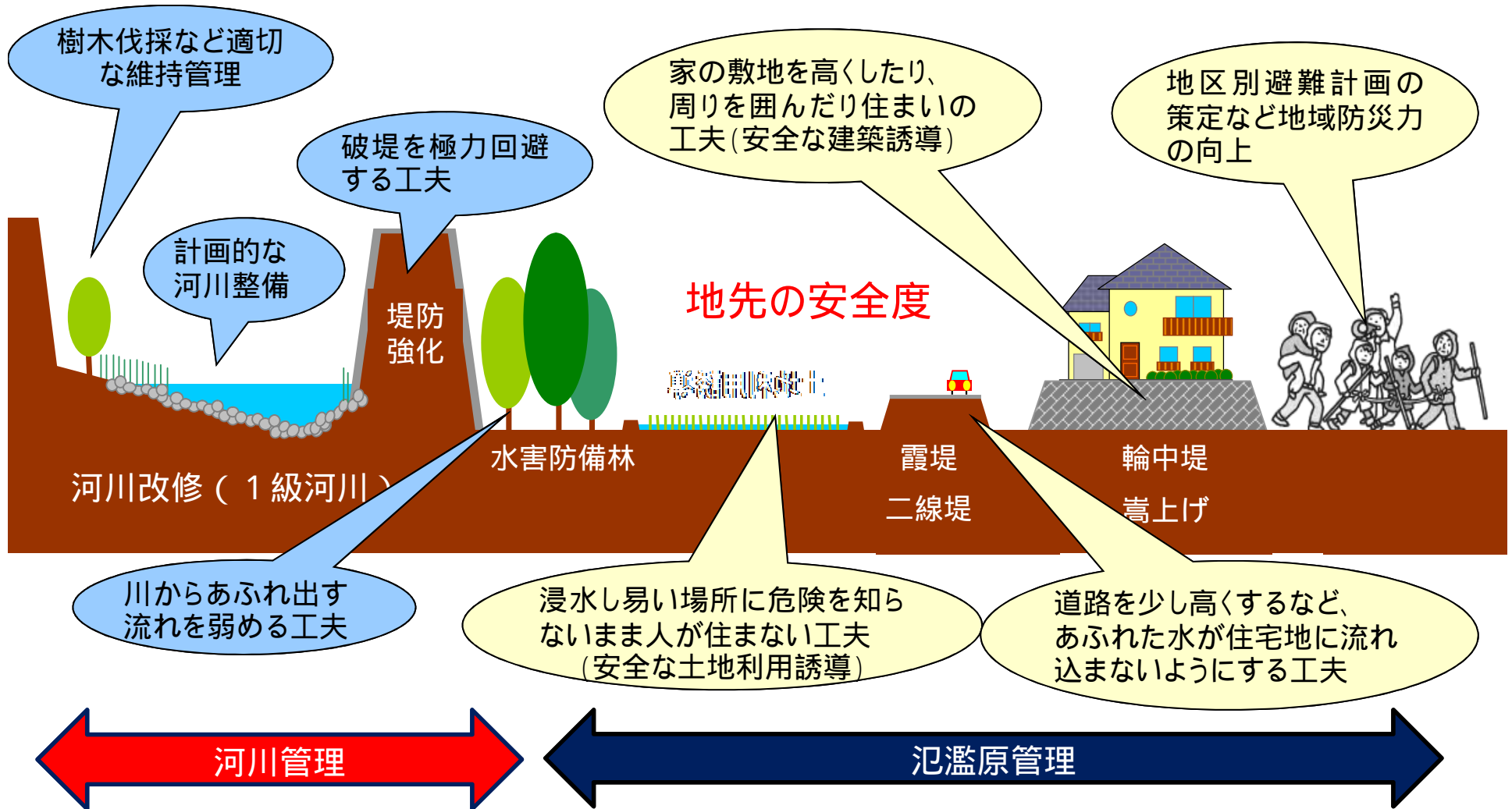
# 滋賀の流域治水政策の概念図

河川管理と氾濫原管理

洪水を川の中に閉じこめる  
政策(川の中の対策)

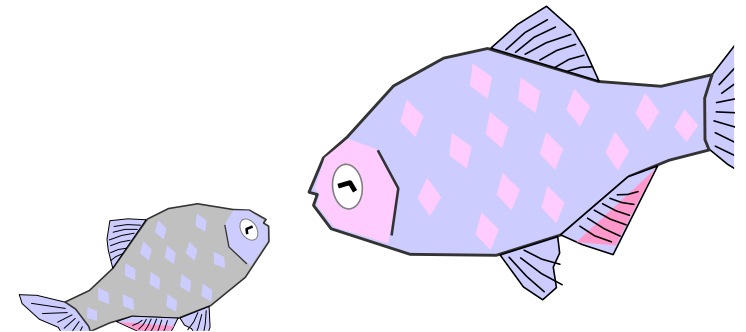


はん濫しても人命を守り甚大な被害を  
減らす政策(川の外の対策)



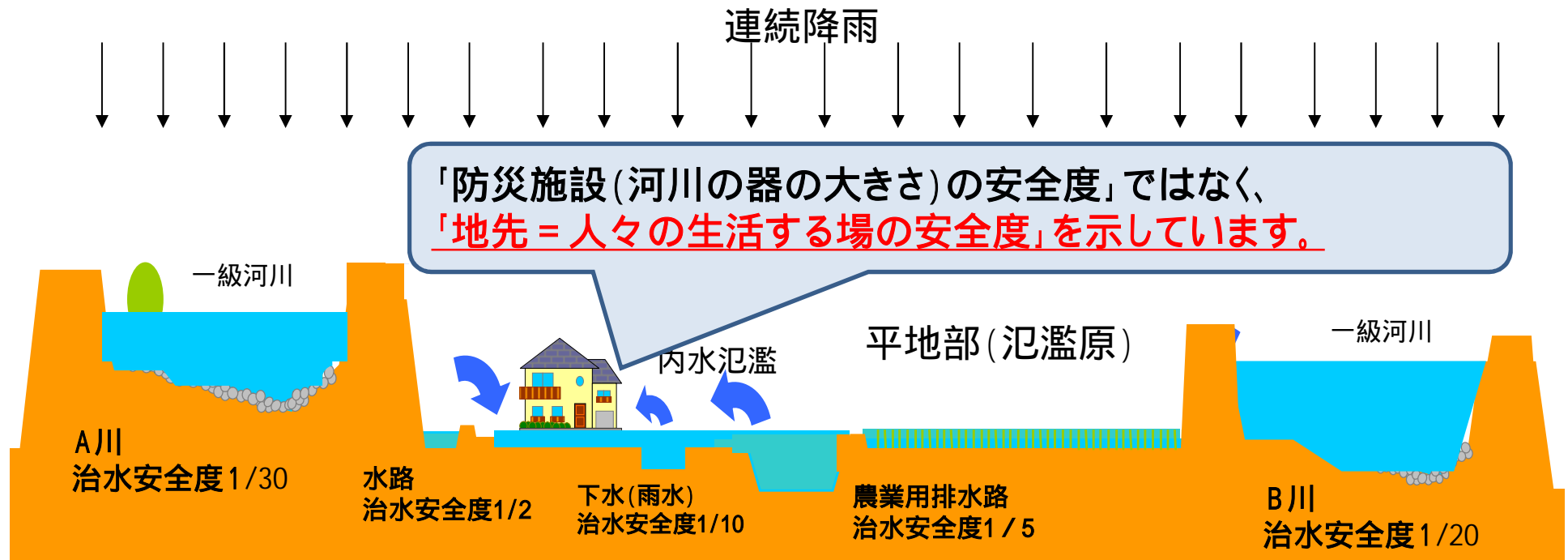
## 2.流域治水の基礎情報 「地先の安全度マップ」

リスクを知らねば始まらない



# 流域治水の基礎情報 「地先の安全度マップ」<sup>7</sup> (全国初。平成24年9月公表)

大河川だけではなく、身近な水路のはん濫なども考慮した浸水想定マップ(10年、100年、200年に一度の雨)



- 浸水想定区域図: 大きな川からのみ氾濫。他は晴天
- 地先の安全度マップ: 大きな川だけではなく、身近な水路も氾濫  
実現象に近い予測が可能となった

# 従来の浸水想定との違い

～ 大川からのはん濫だけでなく、身近な小川や水路からのはん濫も～

- 従来の浸水想定 - 対象とする大川からのはん濫を検討
- 地先の安全度マップ - 大川だけでなく、小川や主な水路からのはん濫も検討



浸水想定区域図に基づくハザードマップ

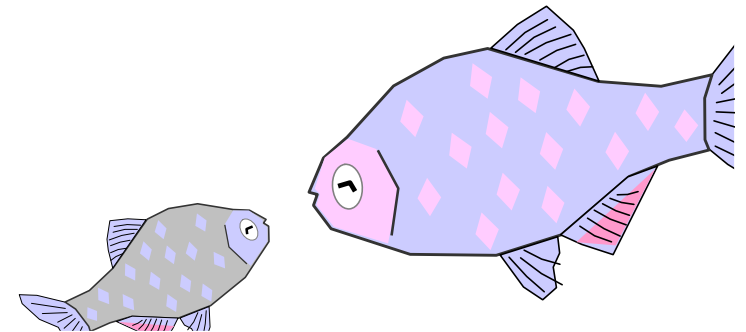


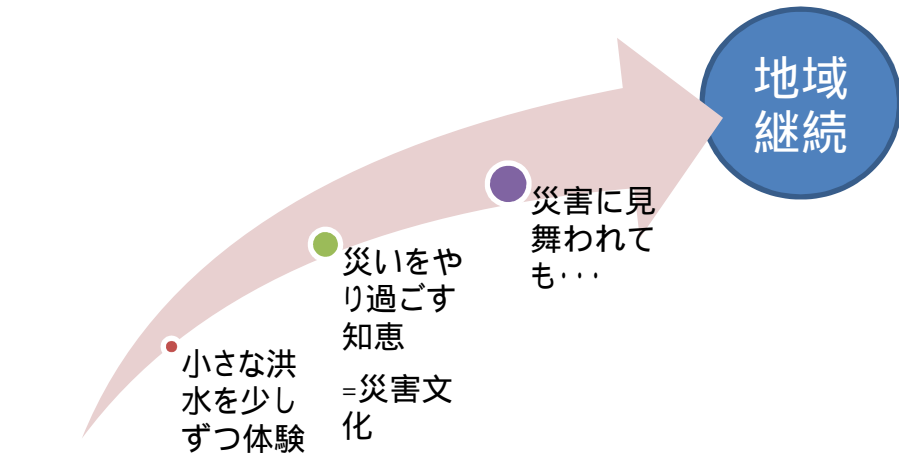
「地先の安全度」マップ



### 3.なぜ「流域治水条例」が必要か

失われる「災害文化」



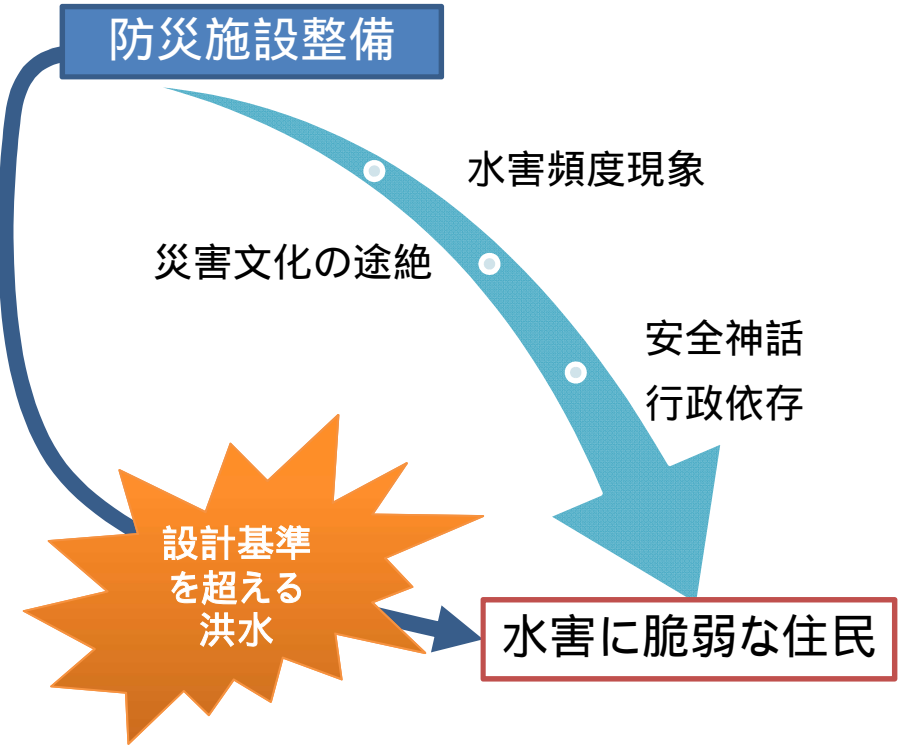


防災施設が不十分



嵩上げされた住宅

「災いをやり過ごす知恵」= 災害文化により地域が継続



「人為的に作られた安全が高まると、人間側の弱さが高まる」問題が発生

先人の知恵(災害文化)をリバイバルして制度化  
滋賀県流域治水条例

地先の安全度マップ1/10

大河川狭窄部 11

民家

浄化センター

農地

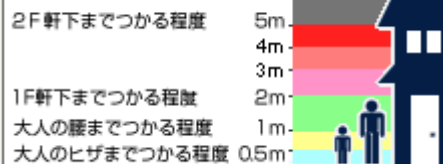
安曇川

朽木宮前坊

避難所

集谷場所等

大雨が降った場合に想定される浸水深さ



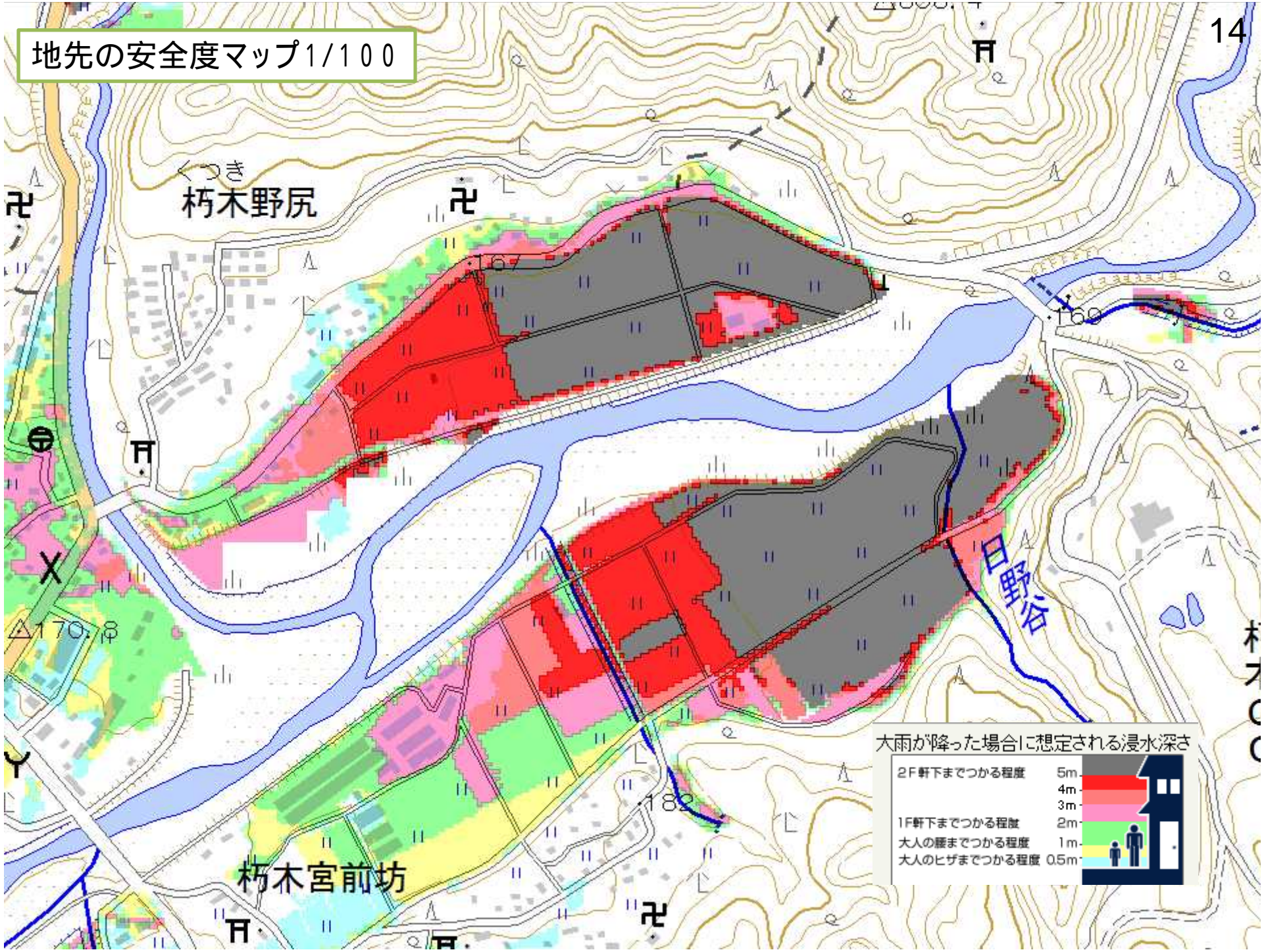
# 高島市朽木野尻 (安曇川沿い)



# 2013年台風18号の状況 (2013年9月16日)



地先の安全度マップ1/100

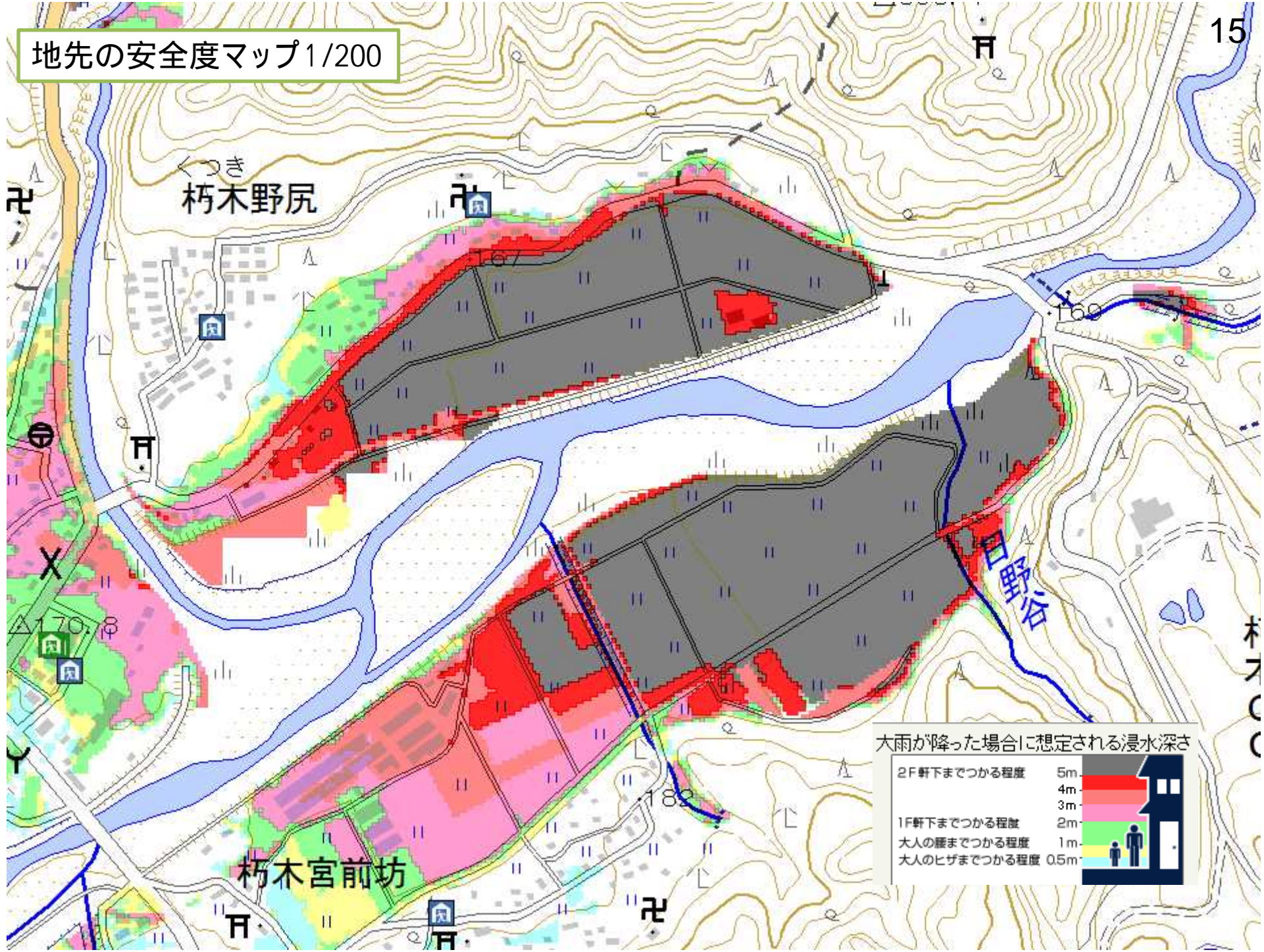


大雨が降った場合に想定される浸水深さ

2F軒下までつかる程度	5m
	4m
	3m
1F軒下までつかる程度	2m
大人の腰までつかる程度	1m
大人のヒザまでつかる程度	0.5m



地先の安全度マップ 1/200



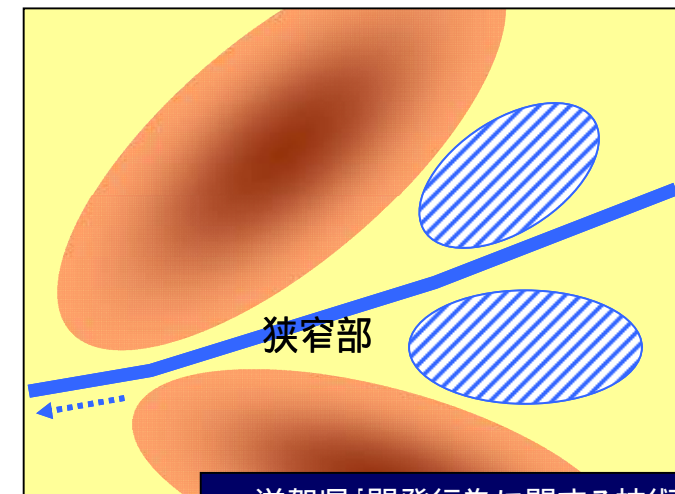
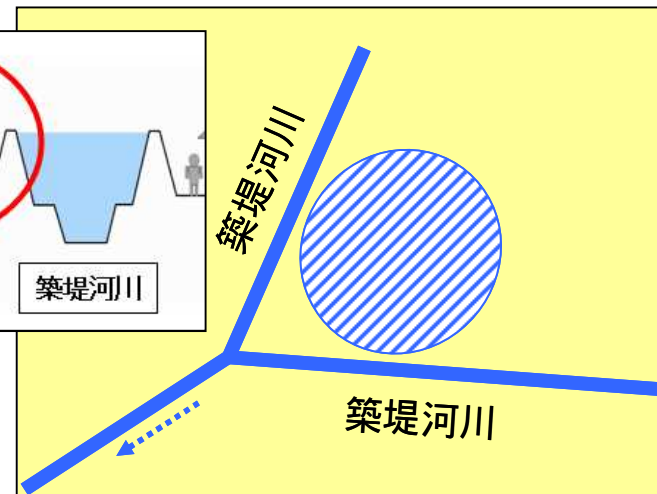
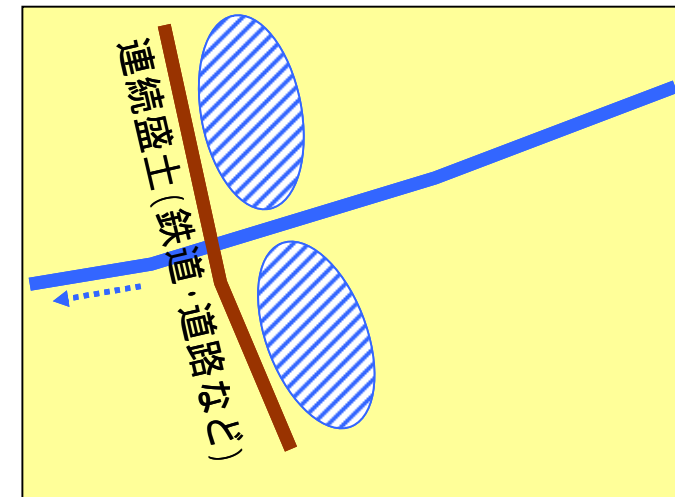
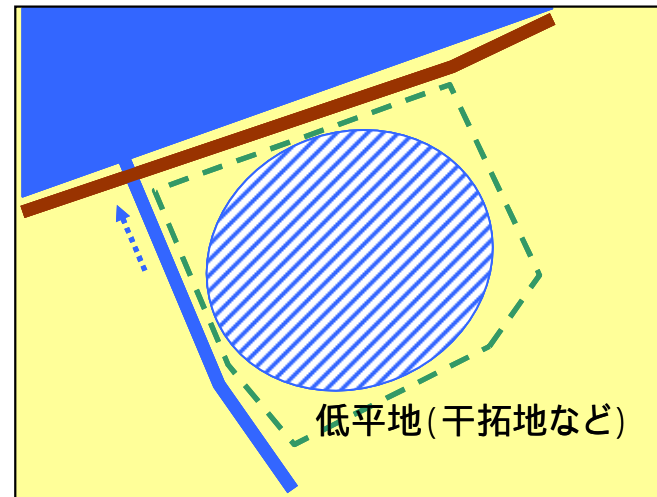
大雨が降った場合に想定される浸水深さ

- 2F軒下までつかる程度 5m
- 4m
- 3m
- 1F軒下までつかる程度 2m
- 大人の腰までつかる程度 1m
- 大人のヒザまでつかる程度 0.5m



# 半永久的に水害リスクが残る箇所

→下図に示す【くぼみ】や【せき止められている】ところは、河川整備の進捗にかかわらず水が集中する。

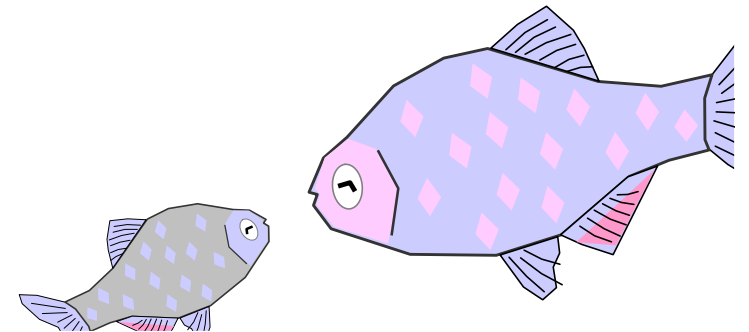


滋賀県「開発行為に関する技術基準」  
から抜粋



## 4.流域治水と建築

家づくりでも治水



# 流域治水条例に基づく 「いえづくり治水」

1. **そなえる**：住む場所の水害リスクを知る。
  - － 宅地建物取引時の水害リスク情報提供の努力義務(条例第29条)
2. **とどめる**：浸水警戒区域での建築制限
  - － 氾濫原における建築物の建築の制限(条例第12条～23条)
3. **ためる**：雨水を利用する。
  - － 公園等の雨水貯留浸透機能の確保(条例第11条)



## 先人の知恵

- 頻繁な洪水の経験

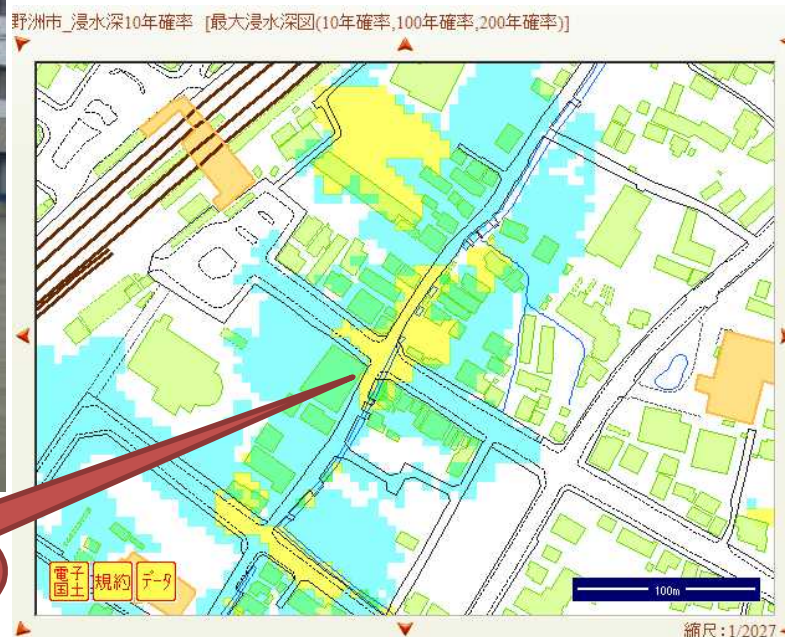
県土地開発公社、財政課公有財産担当、  
企業誘致推進室等は、率先実施中

## 滋賀県流域治水条例(第29条)

- 宅地建物取引業者は、宅建取引時に、取引の相手方に水害リスク情報を提供することを努力義務化



写真の  
箇所



普段は水害に無縁に見える街も、大雨のときには浸水する(右:平成25年台風18号時)

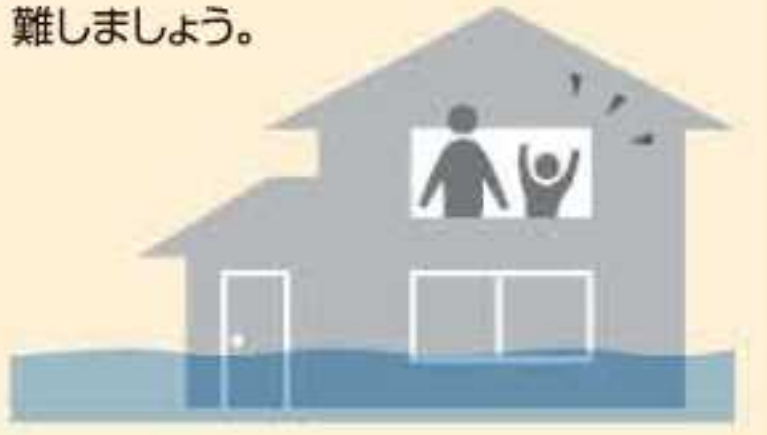
# とどめる 家づくりでも治水 (平成27年3月施行予定)

## 先人の知恵

- 住宅の嵩上げ



浸水が始まっていたら、状況に応じて建物の2階以上や近所の高い建物へ避難しましょう。

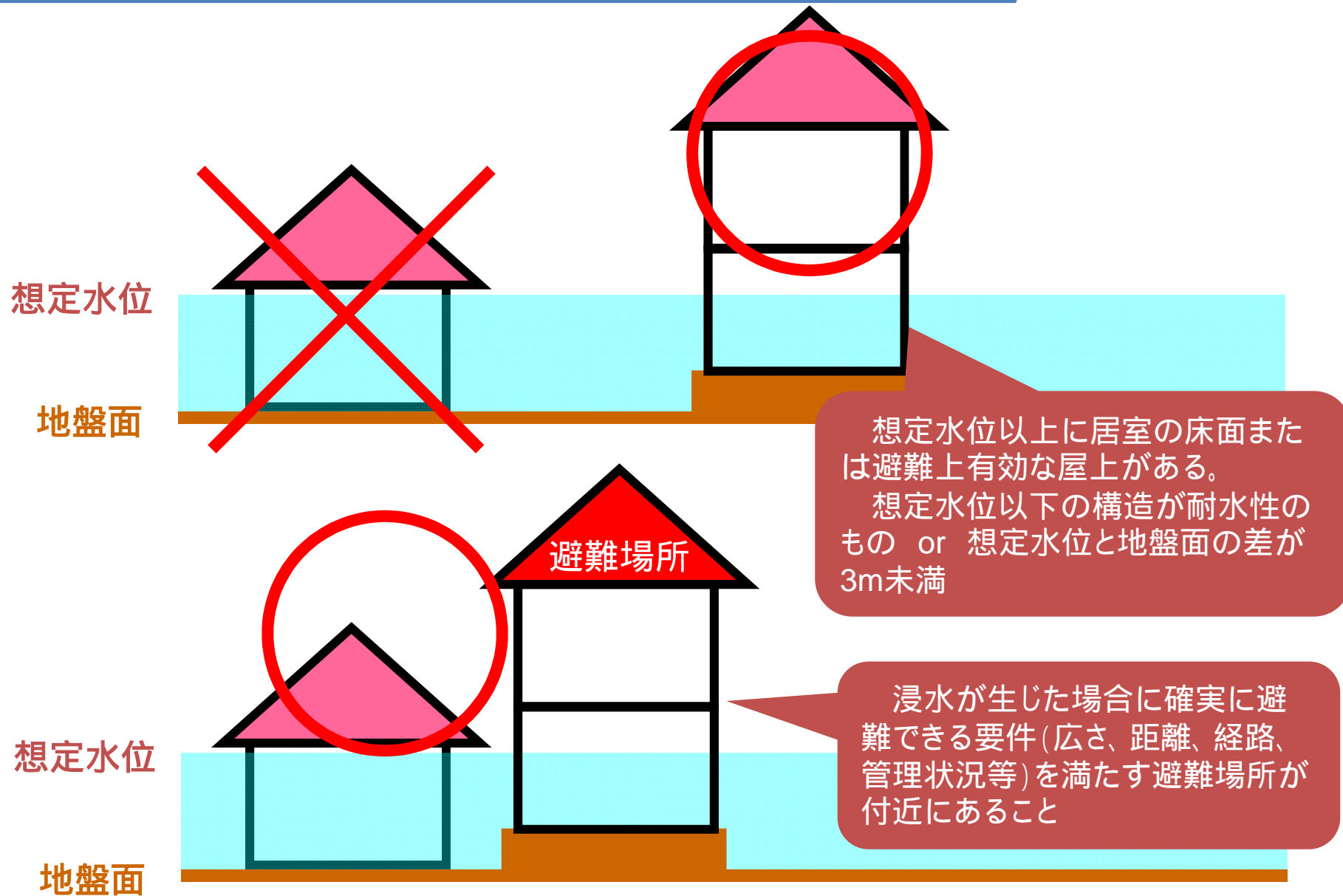


↑京都市防災マップより

## 滋賀県流域治水条例(第13～23条)

- 避難の2つの選択肢
  - 水平避難(避難所への避難)
  - 垂直避難(2階などに逃げる)
- 3m以上の浸水深が予想される区域は、垂直避難が選択できない可能性→「浸水警戒区域」に指定
- 知事は、区域内での住居等の建築に際して、垂直避難ができる建築物かどうかをチェック(第5章)
- 地域の合意を踏まえて十分な協議後に浸水警戒区域を指定

浸水警戒区域内の建築制限 =  
いざという時の避難空間を確保するための最低限の規制



## 先人の知恵

- 農地等での雨水の貯留浸透

引き続き、県は率先取り組み！

## 滋賀県流域治水条例(第10,11条)

- 建物、公園、運動場などの管理者等が、雨水を貯めたり浸透させたりすることを努力義務化



▲滋賀県南部総合庁舎(草津市)  
玄関にも雨水貯留タンクを設置しています



▲高時小学校(長浜市)  
ビオトープ兼用の雨水貯留施設

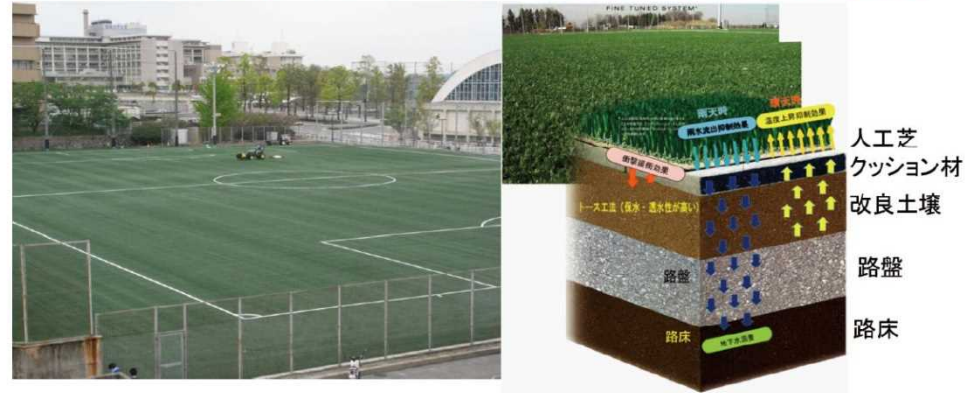
# 福岡県での先進事例

行政・地域住民が一緒に取り組む流域の市民会議を立ち上げ、雨水貯留浸透対策を実施。

平成27年2月15日(日)滋賀県大津にて「第8回流域治水シンポジウム」開催  
福岡県での先進事例をご紹介します。ぜひご来場を！

## 福岡大学サッカーグラウンド

透水保水型グラウンド 足にやさしい、雨でも使える

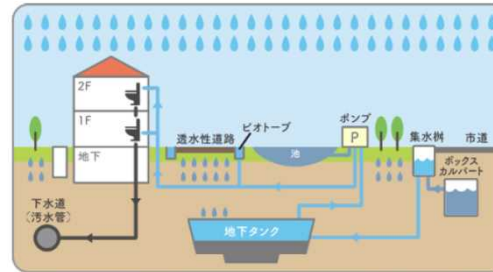


→福岡建築士会が協力して設計「雨水ハウス」



→雨水利用システムを取り入れた分譲団地

## 集合住宅にも1軒 6m<sup>3</sup>ためる 糸島市 荻浦ガーデンサバーブ



17棟で105m<sup>3</sup>



滋賀県流域治水政策関連webサイト

流域治水政策室HP

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/index.html>



滋賀県防災情報マップ

<http://shiga-bousai.jp/internet/map/index.html>



滋賀県流域治水の推進に関する条例制定後の取り組み

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/jyourei/seiteigo26.html>



水害情報発信－水害の記録と記憶－

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/>



お問い合わせ:

滋賀県 土木交通部 流域政策局 流域治水政策室

辻 光浩 ・ 一伊達 哲

Tel: 077-528-4291

E-mail: ryuiki@pref.shiga.lg.jp